

授業科目名	【Gカリキュラム】 - 【EFカリキュラム】 財務会計	その他参照	開講年次	【G】 - 【EF】 2	単位数	【G】 - 【EF】 2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目 (-・-・-・-) / 【EF】教科及び教科の指導法に関する科目 (-・-・-・-)					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための (-・-・-・-) 科目 【EF】教員の免許状取得のための (-・-・-・-) 科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	財務会計の基礎	担当者	松井 富佐男			
授業概要	<p>【実務（証券会社・財務部門業務）経験を活かした授業】</p> <p>全授業時間を通して、決算業務に携わった経験を踏まえ、決算書類（財務諸表）はどのような手続きを経て作成されるかを制度会計の面から学んでいきます。また、複式簿記の手続きによって作成された財務諸表（貸借対照表、損益計算書等）が、どのような仕組みをもっているかを学びながら、企業経営に関する基本的な分析能力を養っていきます。</p> <p>【概要】</p> <p>簿記で学んだ計算技法については、会計理論の考え方が根底にあります。したがって、基礎的な会計理論を修得すれば、複式簿記を学ぶときに役に立つとともに、会社の業績の見方を理解することができます。現代の経営は、ICT化および経済のグローバル化によって、厳しい競争下にあります。そのために、授業では、会社の経営状況がどのようになっているかを的確に判断できる基本的能力を身につけていきます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>制度会計の基本的な知識を修得することによって、簿記の計算技術の理解を助け、また就職活動のときの企業分析に役立つように、実際の事例を紹介しながら、経営上の重要な内容を中心に学んでいきます。</p>					
履修条件	簿記Ⅰ、簿記Ⅱを履修している学生、基礎的な簿記知識のある学生、会社の経営について興味をもっている学生、または、就職活動で役立てたいと考えている学生の受講を望みます。					
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>プリントを配布しますが、必要に応じて授業中に指示します。</p> <p>【参考書】</p> <p>『財務会計通論』（改訂版） 児島康雄、他 （創成社）</p>					
授業回数	授業内容					
1	企業会計の目的		予習：資料で（以下、同様）企業会計の意義を調べる。 復習：企業会計の要点をまとめる。			
2	会計公準		予習：会計成立の前提条件を理解する。 復習：3つの会計公準の要点をまとめる。			
3	企業会計原則（1） 成り立ち		予習：会計原則の成立過程を調べる。 復習：わが国における企業会計原則の役割をまとめる。			
4	企業会計原則（2） 意義		予習：7つの会計原則の意義を読み取る。 復習：真実な報告の観点から、会計原則を考えてみる。			
5	企業会計制度		予習：会社法、金融商品取引法、税法の3つの関係を理解する。 復習：企業会計原則と会社法、金融商品取引法、税法との関係をまとめる。			
6	企業会計制度		予習：損益計算書の目的を調べる。 復習：損益計算書の会計的意義について、その要点を理解する。			
7	収益・費用の測定基準		予習：費用収益対応の原則をよく理解する。 復習：発生主義の考え方と利益の特徴をまとめておく。			
8	貸借対照表の意義と構造		予習：貸借対照表の会計的意義について調べておく。 復習：流動性配列の観点から貸借対照表の構造をまとめる。			
9	資産の意義と分類		予習：資産の意義と資産に属するものを調べる。 復習：流動と固定の分類に着目して、資産の配列構造を理解する。			
10	負債の意義と分類		予習：負債の意義と負債に属するものを調べる。 復習：流動と固定の分類に着目して、負債の配列構造を理解する。			
11	資産・負債の測定基準		予習：取得原価主義の考え方を理解する。 復習：取得原価主義会計について、その要点をまとめておく。			
12	純資産の意義		予習：純資産に含まれる科目を調べておく。 復習：純資産の意義について、株主資本を中心に整理しておく。			
13	国際会計基準の背景と動向		予習：国際会計基準がなぜ必要なのか、調べておく。 復習：国際会計基準のフレームワークをよく理解する。			
14	公正価値会計		予習：公正価値会計の意義を理解する。 復習：公正価値会計の有用性について理解する。			
15	総合問題演習と解説		予習：資料とプリントに目を通しておく。 復習：不十分な知識は補っておく。			
評価方法	授業で行う理解確認シート（40%）、総合問題演習（60%）					
評価基準	上記授業内容について、よく理解し適切に課題を完成させた者には「A」（うち特に優れたものには「S」）、一部理解が不十分な個所のある者には、その程度に応じて「B」または「C」とする。授業内容の理解が不十分な者については、その程度に応じて「D」または「E」、評価不能の場合は「F」とする。					
その他	※G別：法【-】 社【-】 情【-】 / EF別：法【-】 社【-】 経【選択必修（β）】					